

患者さんへ

「甘草含有漢方薬投与患者における
偽アルドステロン症の発症要因の研究」について

現在、筑波大学附属病院薬剤部では、甘草という生薬を含む漢方薬を服用した患者さんを対象に、副作用の調査研究を行っております。内容については、下記をご覧ください。この調査研究についてご質問等ございましたら、下記に記載しております【問い合わせ窓口】までご連絡ください。

【研究の意義・目的】

漢方薬は、さまざまな生薬を混ぜて作られます。甘草は多くの漢方薬に含まれる生薬であり、副作用として偽アルドステロン症が知られています。偽アルドステロン症の主な症状は、高血圧、むくみ、低カリウム血症です。偽アルドステロン症を発症する頻度は、漢方薬に含まれる甘草の量に比例すると考えられてきましたが、甘草の量が少ない漢方薬でも、偽アルドステロン症を発症しやすい場合があることがわかってきました。我々は、偽アルドステロン症を発症する要因は何なのかを明らかにするために、甘草を含む漢方薬を服用している患者さんを対象に、偽アルドステロン症の発症状況の調査を行っております。なお、今回の研究で調査しています甘草を含む漢方薬は、抑肝散（よくかんさん）、抑肝散加陳皮半夏（よくかんさんかちんぴはんげ）、芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）、六君子湯（りっくんしとう）、補中益気湯（ほちゅうえっきとう）、葛根湯（かっこんとう）、防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）、十全大補湯（じゅうぜんたいほとう）、加味逍遙散（かみしょうようさん）、麦門冬湯（ばくもんどうとう）、釣藤散（ちょうとうさん）、半夏瀉心湯（はんげしゃしんとう）、人参養栄湯（にんじんようえいとう）、酸棗仁湯（さんそうにんとう）、大黄甘草湯（だいおうかんぞうとう）の15種類です。

【対象となる患者さん】

2000年1月1日から2022年3月31日の間に、当院において甘草含有漢方薬（抑肝散、抑肝散加陳皮半夏、芍薬甘草湯、六君子湯、補中益気湯、葛根湯、防風通聖

散、十全大補湯、加味逍遙散、麦門冬湯、釣藤散、半夏瀉心湯、人參養栄湯、酸棗仁湯、大黃甘草湯)のいずれかを処方された患者さん。

【研究期間】

倫理委員会承認後から 2023 年 3 月 31 日まで

【研究の方法・取り扱うデータ】

年齢、性別、身長、体重、血圧、病名、既往歴、処方薬剤名及び用法用量、臨床検査値、偽アルドステロン症に伴う症状などを診療録（カルテ）より調査し、偽アルドステロン症の発症要因について検討します。

【試料・情報の管理について責任を有する者】

筑波大学医学医療系・筑波大学附属病院薬剤部 本間 真人

【個人情報保護の方法】

患者さんのデータの取り扱いは、第三者が直接患者さんを識別できないように、データ登録時に定めた登録番号を用いて行います。また、データはインターネットに接続されていないパソコン内に記録して、厳重な管理を行います。調査が中止・終了した場合、データは 10 年間保存した後に消去・廃棄いたします。

【保有する個人情報に関する利用目的・開示手続】

この研究から得られた結果は、学会や専門雑誌において発表されますが、いずれの場合にも、患者さんの住所、氏名、生年月日など個人を特定できる情報は一切公表されず、プライバシーは十分に守られます。

【研究機関名および研究責任者】

代表研究機関および研究責任者：

筑波大学医学医療系・筑波大学附属病院薬剤部 本間 真人

共同研究機関および研究責任者：

ホスピタル板東 久永明人

【本研究への参加を希望されない場合】

ご自身がこの研究の対象であるかを確認されたい場合は、下記【問い合わせ窓口】

までご連絡ください。患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡下さい。既に研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

【問い合わせ窓口】

研究担当者：嶋田 沙織（薬剤部・薬剤師）

連絡先：筑波大学附属病院

〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

電話：029-896-7165（薬剤部調剤室、平日 8：30～17：00）